

成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第2回会議 議事録

1 開催日時

平成29年5月24日（水） 午後2時から午後4時

2 開催場所

成田市保健福祉館会議室1・2

3 出席者

（委員）

西田委員、小林委員、佐藤委員、大木委員、西村委員、一色委員、大木委員、高橋委員、小山委員、沓掛委員、山根委員、北村委員以上12名

（欠席：渡邊委員、石井委員、野平委員（岩沢氏・小林氏代理出席）以上3名）

（事務局）

高田福祉部長

三橋介護保険課長

加瀬林高齢者福祉課長、平岡係長、渡未副主幹、松村主事

社会福祉協議会地域福祉係武田係長

小野生活支援コーディネーター

4 会議次第

1 開会

2 福祉部長あいさつ

3 報告

（1）生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動予定

（2）高齢者福祉課より 成田市認定ヘルパー実績報告

4 議事

（1）各団体の活動報告

（2）意見交換

5 その他（次回の開催）

6 閉会

●開会 高齢者福祉課長

●福祉部長あいさつ

●これより委員長が進行

今年の2月に第1回協議体を開催し、今回が第2回となる。新年度を迎え、それぞれの所属でも新しい体制になったかと思う。協議体も来年度、再来年度

に向けて活動を進めていく。皆様の有益な情報をいただき共有していければと考えている。具体的な取り組みが見える必要があり、この第1層で何ができるか徐々に決めていくことで、本協議体をぜひ有益な情報交換の場にしたい。

●生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動予定（生活支援コーディネーター）

28年度の活動報告について。資料の（1）社会資源の調査について。100歳体操の場や、健康ボランティアの集まりに参加し、情報収集をした。また、買い物難民対策として移動販売について、参加者に聞き取りをした。参加者は60～70代が多く、今は必要ないが、5年後には必要になってくるだろうという参加者の意見が多かった。100歳体操の課題としては会場の確保が難しいことがある。

次に大字別の高齢化率について。配布資料より、ニュータウン地区は高齢化率20パーセントだが、その中で吾妻3丁目は高齢化率が突出している。また、集会所が少ないため、体操の活動を拡大したいが場所がない。玉造4丁目は集会所が0。現在は公民館を使っているが、今後活動する人の数が増えたら利用が難しくなる。次にラジオ体操マップの作成について。100歳体操のマッピングと合わせて行った。100歳体操は現在17か所ある。

（3）移動販売の調査について。成田市ではJAが移動販売を行っている。寺台にあった店舗は閉店したが、移動販売は好評のため今後も継続予定。（4）100歳体操については、普及をしてきたいと考えている。資料（5）（6）に関しては29年度準備をしている。

次に29年度事業計画について。資料（2）の地区社協や民生委員会議、主要団体での勉強会やワークショップの実施について。住民の意見を聞くことがまず一番なので、地域の方対象のワークショップを地域包括支援センターと一緒に実施する予定。ワークショップでご意見をいただき、そこで出た地域課題を協議体で提案、協議していければと考える。

資料の（4）居場所の立ち上げ準備講座の実施について。第1回目を6月20日に実施予定。講座の目的は居場所づくり、交流づくりに興味のある方が集まってネットワークをつくってもらうことを考えている。

資料の（6）100歳体操の拡大に向けた活動システムづくりについては、行政だけではなく住民の方の力も借り、サポーターの育成をしていきたい。

資料の（7）地域での見守り活動について。現在は高齢者が子供の見守りを行っている。子供も社会資源のひとつである。見守られるだけでなく、見守る側にまわる考え方もあるのではないかな。

●委員

社会資源の調査のやり方はどのようにしているのか。

○生活支援コーディネーター

高齢者が活動しているサークル活動を一覧表にした。また、足りない部分については地域の集会場を調べる。ないものは電話や直接確認をする。

●委員

知っているところにしか行けていないのか。知らないところについてはどのように掘り起こしをするのか。

○生活支援コーディネーター

各地域での個々の取り組みを調査することは、非常に大切だと考えている。移動販売やスーパーの介護予防事業の参入状況やコンビニエンスストアによる宅配の調査、介護業界以外の異業種による社会貢献のための介護参入等、調査ができるとういと考えている。方法については協議体の中でお知恵を拝借し検討していきたい。独居高齢者については民生委員さんが情報を持っている。終了していない部分については引き続きやっていく。

●委員

小野生活支援コーディネーターと誰がどんなかたちで進めていくのか聞きたい。難しいことだがゴールをある程度つくる必要があるのではないか。

○事務局

生活支援コーディネーターと協議体が一緒に取り組んでいく。生活支援コーディネーターの活動で明らかになった課題を協議体のそれぞれの団体で何ができるのか、役割も含めて考えていただく。そこから地域の中だけでは解決できないものは、介護保険事業計画等に反映させるなど、市の施策に位置付けて進めていく必要がある。

●委員

具体的にどうやっていくか、どこに目標を置くか検討課題として話していければ良い。

○事務局

市として考えているものとしては、介護予防や生活支援ニーズの把握、必要な取り組みを話し合っていきたい。また、元気な高齢者の社会参加を促していきたい。今ある地域資源をどのように活用していくか、強化していくか。その上で足りないものやニーズを掘り下げていく。

●委員

例えば居場所づくり。子供の話があったが、学童となると教育委員会の所管になる。子供は「知らない人についていくな」と言われている。高齢者の見守りをやるとなると、教育委員会等との連携が必要になってくるが、教育委員会と話す場はあるのか。

○事務局

今現在、教育委員会と話し合う機会はないが、話が出た場合は、協議体の意見として相談していきたい。

●高齢者福祉課より成田市認定ヘルパー実績報告

総合事業が始まり、要支援の方の訪問介護、通所介護について市町村独自の基準で実施できるようになった。今までは有資格者がサービスの提供をしていたが、市の一定の研修を修了した方に、認定ヘルパーとして活躍をしてもらう。介護人材不足の中で、主婦の方や元気な高齢者にも地域づくりの担い手になってもらいたい。昨年度は研修を平成29年2月に3日間、約15時間にわたって実施した。広報、ホームページ等で募集をし、研修終了者は22名。内訳は、男性2名、女性20名。年代は60代が一番多く、中には80代の方もいた。研修内容は高齢者の基礎知識や生活支援について演習も含めカリキュラムを組んだ。積極的に学ぶ姿勢が伺え、研修終了後、地域づくりに参画していきたいという感想も多く、市の意図したところは伝わっていたと思う。認定ヘルパーの雇用を考えている5か所の事業所に、仕事内容の説明を修了者にしてもらう機会を設け、17名の方が参加した。現在、「介護あおぞら」と「生活クラブ風の村なりた」の2事業所が手を挙げてくれている。事業所と相談しながら、成田市認定ヘルパーが活躍していけるように進めていきたい。

●委員

給与は、従来の方と違うのか。

○事務局

雇用契約になるので事業所毎に設定することになり、事業所毎に違いが出てくると思われる。

●委員

認定ヘルパーはどのような位置づけになるのか。

○事務局

有資格者であるヘルパーの人材は不足している現状があり、要支援の人の買い物や掃除、調理については認定ヘルパーが担い、介護の度合いが重い人には、

有資格者がサービス提供をしていけるようにしていければと考えている。限られた人材の中で高齢者を支えていけるようにしていく仕組みづくりが必要である。

●委員

認定ヘルパーとして働くには研修を受ける必要があるのか。

○事務局

一定の研修を受ける必要はある。他市の研修や県が委託して研修をすることもある。他市で受けた方が成田市で働くということも想定される。

●委員

少しでも収入がほしいという高齢者はいるので、そういう方が働けたらいい。研修を受けることで就職はできるのか。

○事務局

現在実施の訪問事業所が 2 か所のため、養成しても受け皿がないのが現状。受け入れ体制を事業所と相談していく必要がある。

●委員

研修は何回かやる予定なのか。

○事務局

今年度も昨年度と同様の研修を予定している。

●委員

認定ヘルパーとしてのメリットを周知できれば受講者も増える。

●各団体より報告

●委員

風の村では、地域で働く人を増やした。初任者研修を行い、人材は増えている。さらに、昨年 5 月から風の村サロンを月 1 回行っている。80 歳・90 歳の外出が難しい人もいるので、送迎付きで行った。西部北地域包括支援センターや民生委員へお知らせしながらチラシの配布を行っている。特徴的な点としては、高齢者夫婦、孤立しがちな人を対象にお伝えしている点。参加者が参加者を呼び増加している。今年度から参加者に自主的に何をしたいか聞き、事業所職員はサポートにまわるようにしている。風の村は大竹にあるが、ニュータウンの

人からの参加もある。大竹の高齢化率は高いが横のつながりがあり、孤立している人が少ないと民生委員さんの話等から聞いているがそこにも入って、地域で認めてもらえようように活動していきたいと考えている。

●委員

デイ通ネットワークでは通所介護事業所間のつながり、ネットワークを持つための活動を行っている。さらに、研修講習会を年に2回開催する。当初はデイ通ネットワークの認知度も低く参加者が少なかったため、講習会をやる際には各事業所へ連絡をした。参加者によって知識レベルの違いがあり、講習内容を決める難しさがあった。今後は他業種、他職種との交流を持っていきたい。

●委員

介護保険事業者連絡協議会は、介護保険事業を実施する事業所等により、平成28年2月に設立された。まずは連絡協議会の認知度を上げていきたい。昨年度は市民向け講演会を行い180名に参加してもらい、介護に対する興味の高さを確認できた。現在はプロの事業者として、地域資源として何ができるか探っている段階。もっと情報を収集していきたい。今後やっていきたいこととして、イオン等ショッピングモールにブースを設け、普及活動をしていきたい。介護に興味を持っていただき、介護の担い手も探していきたいと考えている。

●委員

ヘルパーの会は今年度1事業所増え、10事業所となった。今後として認定ヘルパーの活用を考えている。ヘルパーの会の研修を受けてもらい、資格者と同等の知識を得てもらえればと思う。また、その人たちに資格を取ってもらい、身体の方に関わってもらえるようになればと考えている。そのためにも多くの研修を行い、参加者を募っていきたい。

●委員

公津地区あおぞら会は、毎月1回公民館で、ボランティア10数名が地域の参加の高齢者20数名とともに年間を通じて活動している。活動内容は健康体操や口腔機能体操、音楽療法等。引きこもり防止や介護予防活動を目的に、20年前から行っている。課題としてボランティアの高齢化がある。平均年齢は71歳くらいで80手前の人もある。今後新規ボランティアをどのように増やしていくかも課題。また、送迎がないので参加の範囲が狭まってしまうため、活動拠点や送迎を検討していきたい。あおぞら会の地区をもっと増やしていきたい。ボランティアの活動をポイント制にして人数を増やしたり、活動報酬をできたらいいと考えている。出前講座のように各地の集会等に出向いていき活動を広げたいとも考えている。

●委員

成田市ボランティア連絡協議会（ボラ連）について。加入者は全員ではなく、96 グループのうち 72 グループがボラ連に加入している。ボランティアをやっている人に、いかにボラ連に入ってもらおうかが課題。施設に出向いて、踊りや歌等、交流会をする等はあるが、ボラ連主体で始めたこととして、施設の方に保健福祉館などへ出向いていただいて交流することを始めた（ボラ連のグループは3グループ）。現在までで6回実施し、7月にも実施する予定。年3回の活動をしている。グループが発足15年であり、グループのメンバーが高齢化しているので、移動手段が課題になっている。近隣市との交流を行うと、他市では学生ボランティアがいることがわかった。成田では学生ボランティアのボラ連登録がない。今後は学生さん達もこういった活動をしているんだということを発表していける場を築いていきたい。

●委員

成田市民生委員児童委員協議会は、管内10地区の民児協議会代表で構成され、委員の連携や親睦を図ることを目的に活動している。久住の会長をしているのでそこを主として活動の紹介をする。民生委員は児童も対象にしている。民生委員信条の基本理念を基に活動している。地域社会の実情把握・見守りといった日常生活における活動と、社会福祉協議会の福祉事業の推進。この2つを主にしている。問題点として、守秘義務がある中で、実例を出そうとすると誰の問題かすぐにわかってしまうことが挙げられる。また、敬老会、子供との交流会等、社協での活動は目に見えるが、民生委員の仕事としては表に出ない仕事が多く、民生委員とは誰がやっているのか、何をやっているのか知られていない。今の人は、知らない人に相談したりはしない。名前と顔を知ってもらう必要がある。また、すべての住民が関係するため問題が多い。どういうふうに振り分けていくのか、どこに相談していくのか。行政窓口、相談窓口の機能を強化されれば。開かれた窓口を作っていけたらと思う。

●委員

地域包括支援センターでは、住民主体の顔なじみの仲間と行う100歳体操を平成27年から高齢者福祉課のモデル事業として開始。現在6か所。参加者からは今後も続けていきたいという声があり、やめたグループはない。他にはワークショップの開催を7か所予定している。参加者から要望を聞き、地域マップを作成していく。課題としては、100歳体操等において、地元で集まる場所がないことが挙げられる。公民館も一杯で場所の確保が難しい。今後は地域資源の把握も続けていきたい。できたら良いと思うこととして、活動場所として公共施設など使用できればと思う。地域の方の声を聴いた地域マップを活用していければと考えている。

○事務局

地区社会福祉協議会の活動。地区社会福祉協議会については各地区の民生委員を中心に活動している。活動内容のふれあい訪問、いきいきサロン、敬老会等は高齢者にとって交流や社会参加、見守り、介護予防の効果がある。

日常生活自立支援事業や生活困窮者自立支援事業については、判断能力の低下している方への権利擁護や生活支援を目的にしている。他にも高齢者の方の就労相談がある。外出支援として移送サービス。家事支援として成田おたすけ隊を行っている。また、ボランティアの方と利用者のコーディネートを行う。課題としては、おたすけ隊の協力員やボランティアといった新たな担い手の不足が挙げられる。今後は国際医療福祉大学と協働していければと考えている。154名の学生がボランティア登録をしてもらい、敬老会の会場準備等協力してもらっている。

●委員代理

郵便局としては、成田市ではあんしんみまもりネットワーク構成員としての活動。3月からは市と郵便局の包括連携に関する協定にもとづく見守りサービスを実施。道路の破損や不審者の情報提供を市や警察に行う。日本郵便では8月から全国で有償の見守りサービスを予定している。詳細は確定ではないが、日本郵便関東支社担当者から紹介してもらう。

●委員代理

高齢者の方の毎月の生活状況を家族や自治体に報告するサービスを行う予定。一つ目が定期訪問サービス、毎月1回お宅を訪問し生活状況の確認を行い、その結果を自治体や家族に報告し、要望があれば写真も送付する。二つ目に見守り電話サービス、指定希望の時間に自動電話をかけ、健康状態にあった番号を3つの番号から選んでもらい、その結果を自治体や家族へメールで報告する。各サービスのオプションとして、本人または家族の要望により、駆けつけて安否確認をする。全国に2万とある郵便局の利点を活かして、親子をつなぐサービスを提供していければと考えている。

●委員

成田市ケアマネジャー連絡会は、110名の会員がいる。代表で7名の役員が毎月集まり、年間予定や、地域の医療従事者との連携のための会議への出席等している。会員向けにケアマネジャーの資質向上及び地域での今後の高齢者への対応を含んだ内容の研修等を行った。担当している遠山地区ではあおぞら会、老人クラブ、サークル活動等、その利用者に合う活動を紹介し、公的サービス以外のサービスで利用者の生きがい、生活意欲を高めていけるようにする。対応すべき課題として、独居高齢者が多い現状で、公的なサービス以外の近所の

方の声かけ等が必要なのではと考えている。今後できたら良いこととして、介護保険のサービスだけでは賄いきれないところを地域の住民の方と支えあえればと考えている。買い物等、身近なところから小さな楽しみを大きくつなげていければ良いと考える。

●委員

みなさまの活動、現状をお聞かせいただいた。協議体、第一層でやるべきことはまだ漠然としているが、例えば、なりたいきいき百歳体操は「居場所づくりの事業」で今後推進していくという内容もあるが、活動場所の確保が難しいという話があったかと思う。活動場所の確保のために公共施設の空いているところの活用がひとつ考えられる。自分達のところであればこういった協力ができるだとかがあれば、この場で情報共有できるとよいと考えるがいかがか。

●委員

小中学校の空き教室はなぜ使えないのか。

●委員

上手に使えれば世代間交流になる。安全面というのがあるのか。

●委員

できないことを避けて通ってきているところがあるのでは。こういう場で話してみるのもいいのではないか。

●委員

例えば、PTA等名札をつけると学校に入れたりする。利用者を整理してそういったものを配付できれば活用できるのではないかと思う。

○事務局

学校長の許可を得ることができれば、体育館等、サークル活動として借りられる。学校の授業をやっている昼間に借りるのは難しい。

●委員

もう少し小さいところ。プレハブを持っているところとかはどうなのか。

○事務局

その場合、管理の課が代わってくる。

●委員

子供の交流などを考えた場合、パスをもらって学校の昼休みを使えば交流になり、見守りにもつながるのではと思う。協議体の目指すところをこのように設定しても良いのではないか。

●委員

活動場所について、空き家が増えているという話があると思うが、空き家情報はどのように把握できるのか。

●委員代理

NPO法人で把握しているところがある。

●委員

生活支援コーディネーターがまとめた玉造 4 丁目は集会所がないとあるが、もし体操をしたいとなったらどうすればよいのか。

●委員

体を動かすことが好きではない人は参加しない。本当に参加してほしいのはこういう人である。

●委員

健康に興味ない人は参加しない。独居の人でそういった人をどのように把握していくか。100 歳体操の受付というのは市なのか。

●委員

包括でも行っている。住民主体で行うものなので、場所も自分たちで確保してもらおう。

●委員

100 歳体操が始まったとの情報は地域に行くのか。

●委員

全体的な情報の提供は回覧が大きいネットワークになっている。

●委員

サンコーポでは本人たちが団地にちらしを配った。

●委員

実際やる人は大変である。

●委員

郵便局に持っていったら配ってもらえるのか。

●委員代理

かもめ一等を使ってこの地区だけ、と配達することはできる。

●委員

そういう話になると予算の問題が出てくる。

●委員

この話のあたりにこの会の目指すところがあるのでは。今まではできないことを避けてきた。

●委員

今日出た内容でできること、できないこと、やれることを整理し、第一層の目標を決めていく。

●委員

開発の影響でなくなる集会所もある。その代わりに中学校を使っていたりする。

●委員

学校を借りたりすることは大変で、事故の際の問題もある。理想と現実のところを確認する必要がある。急いで結論を出すのではなく、積み上げていくのが良いのではないか。

●委員

いろいろな意見をいただいた。ここからがスタート。ここから絞っていき課題解決に向かっていきたい。

●委員

話にも出たが、地区社協の活動等をやっていると思うのは、元気な人は活動に来る。本来、来てほしいと考えている人は来ないという現実がある。小学校の昼休みの利用という活動も、学校側の安全管理の面等からすぐに行うことは難しいだろう。しかし学校の教室は空いてきているという現実はあり、廃校になっている学校もある。自分のところは社会福祉法人だが、廃校になった学校を福祉施設にして地域に開放していこうと考えている。地域によっては難しいと

いうところはあるかもしれない。学校がないところでは地域の団結力もなくなっている。また、後継者がいない地域や、実際に老人クラブが解散している地域の現状もある。避けて通れない部分について、時間をかけて答えを出してあげたらよいと考える。

●次回開催

8月に第3回を予定している。

●閉会